

**製品名: USP15 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19665**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	115kDa

**抗原情報**

遺伝子名	USP15
別名	USP15; KIAA0529; Ubiquitin carboxyl-terminal hydrolase 15; Deubiquitinating enzyme 15; Ubiquitin thioesterase 15; Ubiquitin-specific-processing protease 15; Unph-2; Unph4
遺伝子 ID	9958.0
SwissProt ID	Q9Y4E8
免疫原	抗血清はヒト USP15 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

**背景**

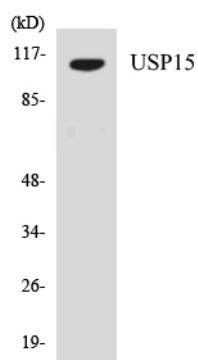
この遺伝子は、脱ユビキチン化酵素であるユビキチン特異的プロテアーゼ (USP) ファミリーのメンバーをコードしています。USP

酵素は、ポリユビキチン鎖の分解とユビキチン-基質結合の加水分解を通じて、ユビキチン依存性プロセスにおいて重要な役割を果たします。コードされているタンパク質は COP9 シグナロソームに結合し、受容体活性化 SMAD 転写因子の脱ユビキチン化を介して、成長因子  $\beta$  シグナル伝達のトランスフォーミングにも関与しています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写変異体が観察されており、この遺伝子の擬似遺伝子は染色体 2 の長腕に位置しています。[RefSeq 提供、2011 年 11 月]触媒活性: ユビキチン C 末端チオエステル+ H (2) O = ユビキチン+チオール。類似性: ペプチダーゼ C19 ファミリーに属します。類似性: 1 つの DUSP ドメインを含みます。組織特異性: 骨格筋、腎臓、心臓、胎盤、肝臓、胸腺、肺、および卵巣で発現し、他の組織ではほとんどまたは全く発現しません。、

## 研究分野

細胞生物学; タンパク質分解 / ユビキチン; プロテアソーム / ユビキチン; 脱ユビキチン化; エピジェネティクスと核シグナル伝達; ユビキチンおよびユビキチン様修飾因子

## 画像データ



USP15 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。